

グローバル人材育成プログラムを終えて

船越 敬史
Takashi FUNAGOSHI
情報メディア学科 3年

1. はじめに

私は2016年8月11日から29日までの間グローバル人材育成プログラムとして、アメリカのカリフォルニア州サンフランシスコで実習をさせていただいた。初めの3日間は企業訪問やキャリアセミナーを行った。その後2週間ホームステイをしながら、10日間企業での研修をさせていただいた。

2. 目的

私がグローバル人材育成プログラムに参加した目的は、グローバル人材とはどのような人材を指すのかを理解すること、異文化との交流をして生活や価値観の違いを知って理解すること、自身の英語力の向上、今の自分に自信を持てるようになることである。

3. 企業訪問

私たちは、オラクル社、Computer 博物館、Plug & Play、Intel Museum、NASA Research Center、Facebook、Google サンフランシスコオフィスを見学・訪問した。訪問をさせていただいた企業では現地で働いている日本人の方の考え方や、日本とアメリカの就職時に必要な要素の違いをきくことができたり、オフィスの中を見学させていただいて、ビジネススタイルの違いを自身の目で見ることができたりと貴重な経験をすることができた。また、Plug & Playのような起業をしようとする人たちへの支援に対する考えの違いも聞くことができ、そこでは現役の大学生の方々も多く活動されており、日本との様々な違いを体感できた非常に刺激的な時間であった。

4. 実習内容

私は Ichiban kan という小売店（図1）で10日間研修をさせていただいた。Ichiban kan は日本から雑貨類の商品を直輸入し、自社小売店を通じて販売している会社で、日本からの輸入商品以外にも現地の間屋からも同様の商品を仕入れて販売するユニークなビジネスモデルで現在3店舗を展開しておられる会社である。



図1 Ichiban kan 日本町店

研修内容は日本町店での店頭スタッフとしての研修と WARE HOUSE での倉庫作業であった。店頭スタッフとしての実習では商品の品出しや在庫の検品、接客といった販売員としての基本的な業務を中心に行った。またその他にバックヤードでのコンピュータを使用した検品結果の打ち込み作業や営業報告のメールの送信もさせていただいた。そこではネットワークや管理システムについての説明もいただいた。倉庫での作業では各店舗のオーダーに合わせた荷造りや日本からくる商品の輸入ルートや商品の扱いの説明をもらった。また隣接しているヘッドオフィスでの管理作業についても実際に仕事場を見せていただくことができた。

5. 実習を通して学んだこと

今回の実習では販売の部分だけでなく、輸入やコンピュータによる商品管理なども研修に含んでいたため、小売業の全体像を見させていただくことができた。実習先ではそれぞれの店舗の売れ行きをヘッドオフィスに報告しデータの集計をしていた。この

ことで、各店舗の売れ筋や不動の人気商品が浮き出ていた。こうして売れ筋や人気商品の傾向を分析することで、どの商品をどんなタイミングで注文すればいいかという判断を下していた。その他に各店舗の売上げの傾向を見ることで、お店のロケーションや地元の人にどんな人種が多いかなど様々な要因が売上げに関わってくるのが分かった。今回、研修させていただいた日本町店では、ホテルがすぐ隣にあることと、日本町という立地の関係上から、アジア系のお客様と欧米系のお客様の割合がほぼ同じくらいであり、に立地に関連した客層の違いを体感し、知ることができた。このようにデータベースがどんなことに利用できるのか、また商品管理に利用しているシステムを学ぶことができた。倉庫での作業と店舗での販売の両方を体験することで、品物がどこからきてどのように動くのか、コンピュータが裏でどのように動いているのか、それらを人がどう管理しているのかと、自分が学科で学んだことが社会ではどう利用されているかを学ぶことができた。

6. ホームステイ

私はこれまでにホームステイの経験がなく、初めての経験だったので、大きな緊張と不安があった。しかし、お世話になったホストファミリーの方はとても親切で、食事のたびに味はどうかと伺ってくださり、インターン先にもっていくランチまで用意してくださいました。他にもお風呂には毎日入っていいなどとても気を遣ってくださいました。また、休日にはツインピークやピア39といった有名な観光地や大型ショッピングモール、ダウンタウンに連れて行ってくださり、何度もレストランと一緒に食事をさせてくださいました。他にもホストファミリーが勤めている会社のクラブシートでのアメフト観戦や、会社案内までして下さったりと、とても有意義で新鮮な時間を過ごすことができた。会話についても、私自身

あまり英語で話すことが得意でなく伝わるか不安であったが、熱心に聞いてくださり体を使ったりすることで意思疎通ができた。このことで私は諦めることなく相手に伝えようとする意志を持つことが大事であると思った。最終日にも空港まで送ってくださったが、自分の感謝の気持ちを満足に表現できないままのお別れとなってしまった。そんな心残りがあるものの、本当に素晴らしい時間を過ごさせていただいた。

7. おわりに

私は今回のプログラムの参加において、グローバル人材とはどのような人材かを知ることが目標として掲げた。私はこのプログラムを通して「他人の価値観や考えを理解することができ、そのうえで自分自身の価値観をしっかりと持っている人、また他者と積極的に関わろうとする人」と考えた。これは研修先の社長やホストファミリーを間近で見、積極的に他の考えを聞こうとする意識を持たれていることを感じたからである。今回の研修を通してそのことを学べたので、今後は実践へと移すことが課題だと考えている。また、実際に海外に身を置くことで自分自身にどれだけ英語力がないかを痛感することができた。自分の言いたいことや気持ちが満足に言い表せないもどかしさ、悔しさ、相手の言っていることが完璧には理解できない不安など多くのことを感じたことから、語学の勉強も必要であり、今後の大きな課題であると思った。しかし、伝えようとする気持ちを持つことが大切であるということも分かった。今回の渡航は自分にとって本当に有意義で多くの経験をすることができた貴重な時間であった。

最後に、ホームステイを受け入れてくださったホストファミリーの方、インターンを承諾してくださった企業の皆様に心よりお礼申し上げます。